氏　　名	程　亮
学 位 の 種 類	博士（歴史民俗資料学）
学 位 記 番 号	博甲第 247 号
学位授与の日付	2019 年 9 月 30 日
学位授与の要件	学位規則第４条第１項該当
学位論文の題目	狐仙信仰の研究　－漢民族民俗信仰の一側面－
論 文 審 査 委 員	主査　神奈川大学　教授　佐 野 賢 治
	副査　神奈川大学　教授　小 熊 誠
	副査　神奈川大学　教授　前 田 禎 彦
	副査　慶應義塾大学　名誉教授　鈴 木 正 崇

【論文内容の要旨】

狐仙信仰は中国北方地域で最も普遍的な民俗信仰の一典型として、中央政権に規制されながらも、民間で千年以上伝承されてきた。本論文は、狐仙信仰を対象に、「千年伝承の理由」、「狐仙の特徴－性格と意味」、「漢民族民俗信仰体系における位置づけ」、「狐仙信仰の定義」の究明を目的とし、これまで狐仙信仰の調査空白地域である中国華中地方湖北省西北部 S 市を調査地に選定、集中調査を行い、歴史民俗資料学的立場から、「狐仙信仰の概要」、「文字資料にみる狐仙信仰」、「口頭伝承からみる狐仙信仰」、「祭祀儀礼からみる狐仙信仰」、「狐仙信仰と邪症治療との関係」、「狐仙信仰と他の民俗信仰との結合」の６視点から狐仙信仰を考察する。

本論文は狐仙信仰の通時的性格と現代の地域社会における民俗学的位置付けを記述、分析するために、以下の章節立てを取り、漢民族民俗信仰体系におけるその展開と現代的意味を論じる。

序章　問題の所在と調査研究法　第一節　研究の動機と研究対象　1.研究の動機　2.研究対象の説明　第二節　先行研究動向と問題の所在　1.文学的アプローチ　2.歴史学的アプローチ　3.民俗学・文化人類学的アプローチ　4.問題の所在　第三節　目的と方法論　1.本研究の目的　2.調査地の選定　3.調査・研究方法　第四節　論文の構成と概要

第一章　狐仙信仰の概要　第一節　狐仙以前―トーテム・自然獣・瑞兆・狐妖と狐神　1.トーテム　2.自然獣　3.瑞兆　4.狐妖　5.狐神　第二節　狐仙の成立と歴史的展開　1.唐代文献にみる仙狐の誕生　2.明代文献にみる狐仙の成立　3.清代文献にみる狐仙信仰の拡散　第三節　狐仙信仰の年代分布と地域分布　1.「中国方志」とは　2.「地方志における狐仙」データベースの作成　3.狐仙信仰の年代分布　4.狐仙信仰の地域分布　第四節　狐仙信仰の地域性　1.東北地方の狐仙信仰　2.華北地方の狐仙信仰　3.北方の狐仙信仰と南方の狐仙信仰

第二章　文字資料にみる狐仙信仰－S 市地域の地方文献を手掛かりに　第一節　調査地 S 市地域の概要　第二節　明、清、民国の湖北省 S 市地方誌にみる狐仙信仰　第三節　新中国の S 市地方誌にみる狐仙信仰　第四節　地方民俗学者の記述にみる狐仙信仰

第三章　口頭伝承からみる狐仙信仰－S 市地域 D 市 W 村を事例に　第一節　W 村の口頭伝承 1.W 村の概要　2.『伍家溝民間故事集』の採集と出版　第二節　W 村の狐精故事　第三節　狐精故事の特徴と類型　1.「狐の呼称」　2.「登場人物」　3.「狐が棲む所」と「狐が人間と出会う所」 4.「狐の変身」と「人狐婚」　5.「狐払い」と民間宗教職能者　6.「富の運搬」　7.狐精故事の類型　第四節　狐精故事と狐仙信仰　1.狐精故事の起源　2.狐精故事と村の生活　3.狐精故事と狐仙信仰

第四章　狐仙祭祀の諸相－S 市地域 D 市と F 県の山村地帯の事例を中心に　第一節　調査地の概要 第二節　狐仙祭祀の事例　1.D 市の狐仙祭祀　2.F 県の狐仙祭祀　第三節　狐仙祭祀の諸相 1.祭祀の分布　2.祭祀の理由　3.祭祀の時間と空間　4.祭祀の過程と用品　5.狐仙祭祀の類型と特徴　第四節　狐仙祭祀の普遍性と地域性　1.狐仙祭祀の両義性　2.狐仙祭祀の擬人性　3.狐仙祭祀の秘密性と公開性　4.民間宗教者の地域性　5.狐仙をめぐる統合概念の地域性　6.狐仙と道教的思想　第五節「神・鬼・祖先」と狐仙　1.「神・鬼・祖先」の登場　2.「神・鬼・祖先」の補足と台湾モデルの成立　3. 浙江、福建、広東の「神・鬼・祖先」と湖北モデル　4. 湖北の「神・鬼・祖先」と狐仙

第五章　狐仙信仰と邪症治療－S 市地域 D 市山村社会の事例を中心に　第一節　調査地の概要 第二節　邪症治療の事例　第三節　邪症の原因と類型　1.邪症の原因　2.邪症の定義と類型　第四節　邪症治療の諸相　1. 邪症治療の時期　2.邪症の病者－女性の精神的ストレス　3.多様な治療者　第五節　邪症治療と狐仙信仰　1.邪症の治療過程・結果と狐仙信仰　2.邪症の説明体系としての狐仙信仰

第六章　狐仙信仰と胡子爺信仰の結合－S 市地域の D 市 L 村を事例に　第一節　調査地の概要　第二節「胡子爺」について　1.地方文献に見る「胡子爺」　2.「胡子爺」にまつわる口頭伝承　第三節　胡子爺信仰の成立　1.「胡子爺」の墓と廟　2.「胡子爺」の霊験談と信仰の成立　第四節　狐仙信仰と胡子爺信仰の結合　1.狐仙信仰の伝統　2.狐仙信仰と胡子爺信仰の結合過程　3.狐仙信仰と胡子爺信仰の結合理由　第五節　狐仙信仰の眷属性と境界性　1.狐仙信仰の眷属性　2.狐仙信仰の境界性（リミナリティ）

結章　結論と今後の課題　第一節　総括（1）狐仙信仰の歴史的展開と地域性　第二節　総括（2）S 市地域の歴史民俗資料にみる狐仙信仰の諸相　第三節　狐仙信仰とは何か―結論と今後の課題 1. 千年伝承の理由　2. 狐仙の特徴、性格と意味　3. 漢民族の民俗信仰体系における位置づけ　4. 狐仙信仰の定義　5. 今後の課題　巻末に参考文献を付す。

以上の論文構成により、以下のことを明らかにした。

（1）「狐仙」の観念が成立する以前、狐はトーテム、自然獣、瑞兆、狐妖、狐神など歴史文献にさまざまに記載されていた。狐が仙術を修める記述が唐代にはみられたが、道教の神仙思想と狐妖の観念が融合し、「仙狐」という言葉が使われていた。その後、道教が盛行した明代中後期に至り、狐妖の観念と道教の修行思想が融合し「狐仙」の言葉が成立した。清代に入ると、「狐仙」は狐神の観念をも吸収し、民衆の間で広汎に受容され、その信仰も盛行した。

（2）S 市の旧方志（明、清、民国）と新方志（新中国）には、狐仙の記述があまり見られないが、S 市地域の地方民俗学者の調査では、狐仙・狐精の口頭伝承、狐仙祭祀と巫覡の治病などが確認されている。狐仙が正史、地方志に記述されず、民間において長年にわたって伝承されてきた理由は、その非正式性と秘密性にあると考えられる。

（3）S 市地域では、「狐仙」の口頭伝承は 7 類型あり、「古代書承の狐精故事」、「外部との交流」、「村人の生活体験　想像と実践」に起源し、狐仙信仰の一側面を反映する一方、狐仙信仰は村人の生活や行動に影響を与えている。

（4）S 市地域の狐仙祭祀は屋内祭祀、屋敷祭祀と野外祭祀の 3 類型がある。東北地方と華北地方の事例と比べて、狐仙祭祀の普遍性は両義性、擬人性、秘密性と非正式性にあり、地域性は民間宗教者の多様化、統合概念の相違、道教的思想の影響にある。また、漢民族他界観の「神・鬼・祖先」3 位モデルと比べて、狐仙は山中他界からの訪問神に対応する性格が認められた。

（5）S 市地域の狐仙信仰は邪症治療と深く関係し、邪症の説明体系として巫医によって維持・運用され、邪症治療という実践を通じて治療者・巫医と病者・村人の双方によって伝承されている。

（6）S 市地域では、狐仙は他の神霊－胡子爺と結合する現象が見られる。両者が結合する過程と理由を考察することにより、狐仙信仰の眷属性、境界性（リミナリティ）の特徴が明らかになった。

結論として、狐仙信仰はその「千年伝承の理由」が柔軟性と境界性にあるといえる。狐仙信仰は当該の社会状況に応じて、秘密祭祀あるいは公開祭祀を選び、柔軟的に中央政権に対応した。狐仙は正式の神霊ではなく、その神霊の化身あるいは使令と見なされており、一時廃れても、他の神霊と結合することによって、より多くの信者を集め、その信仰圏を広げることができた。それゆえ、狐仙信仰は中央政権に規制されながら、民間で千年以上伝承されてきた。狐仙信仰こそ、中国民間における最も生命力溢れる民俗信仰といえる。

「狐仙」は現世利益性、両義性、擬人性、秘密性と非正式性、地方民間宗教者の介入、移民との関係及び道教的思想の要素を有し、治病神、致富神、除災神、守護神、子授けの神など多様な機能を有するが、治病神と致富神としての性格が最も強い。また、「狐仙」は「神・鬼・祖先」と異なり、山中他界から人間界に来訪する異人としてとらえられた。それゆえ、「狐仙」は、道教的精怪観念・神仙思想やシャーマニズム的要素を吸収し、各地域の民間宗教職能者に利用され、柔軟性と境界性を持つ民俗信仰の一典型を示し、民俗信仰の研究史において非常に重要な位置を占めると考えられる。

狐仙信仰は、現段階で、中国の華北地方に起源し、歴史上の狐信仰を継承し、道教的精怪観念・神仙思想やシャーマニズム的要素と融合し、民衆の日常生活の実践に基づいて創られ、口頭伝承、祭祀儀礼と祠廟空間を通じて民衆の記憶と知識として内面化し、伝承されてきた。さらに、人々の移動に伴い華北地方から他の地方へ伝播、定着する過程で、その地方の伝統的な土着信仰と接触し、次第にそれぞれの地方性・民俗性を有していった。日常生活に不可欠な民俗信仰である狐仙信仰は土着的民衆の土着的な信仰と主として道教的な神仙思想が融合した漢民族における民俗信仰を構成する信仰形態としてとらえることができる。

今後の課題として、巫覡・シャーマニズム、富の移動と狐仙信仰の関係、また日本の稲荷信仰との比較などから、さらに漢民族の民俗信仰体系における狐仙信仰の位置づけを明らかにしていきたい。

【論文審査の結果の要旨】

本論文は、中国の漢民族の民俗信仰である狐仙に関して、多くの文献を渉猟して時代的変遷を明らかにすると共に、湖北省の山村での詳細な現地調査に基づいて動態的状況を考察した優れた研究である。従来の狐仙信仰の研究は、中国東北地方や華北に偏っており、南方の華中での狐仙信仰に関しては、本論文が最初の体系的な研究成果といえる。

本論文の評価すべき点は以下にある。

1. 狐仙に関する先行研究を丁寧に読み込んで、今後の研究の課題を明示した。
2. 狐仙信仰の歴史的展開を、唐代・明代・清代に遡って検討し、「中国方志」のデータベースを活用して、変遷年代と地域分布を明らかにし、北方系の狐仙信仰と南方系の狐仙信仰の差異性と共通性を明らかにした。
3. 現地調査を行った湖北省の丹江口市とその周辺での狐仙信仰に関する文献、特に地方志と地方民俗学者の記述を批判的に検討して、普遍性と地域性を明らかにした。これにより本人の現地調査の位置付けが定まり、研究課題が明確になった。
4. 調査地の山村に住み込んで、現地の人々の協力を得て、数多くの口頭伝承を収集し、狐仙信仰の実態を、呼称・登場人物・場所性・狐の変身・人狐婚・狐祓い・宗教的職能者・富の運搬などの項目をたてて整理し、特徴を明らかにした。さらに、狐仙と狐精との関係性を考察し、村人の世界観を深い次元で把握することに成功、従来にない独創的成果をあげた。
5. 狐仙信仰の祭祀の実態調査から、両義性・擬人性・秘密性・道教的思想（武当山信仰）など、その要素を分類し、普遍性と地域性を明らかにした。これにより、漢民族の民俗信仰について従来定説化していた「神・鬼・祖先」の相関モデルを批判的に検討、狐仙信仰を加えた新たな民俗信仰のモデルを提示した。このモデルは閉鎖的ではなく、口頭伝承の文字化、不可視のものの可視化、農山村と都市の相互交流、移民の関与など外部要因による変動も含む開放的なモデルとして示された。
6. 調査地の病気治療、特に邪症に関して、狐仙信仰と治療者としての馬子・法官・端公・陰陽仙などが、密接に結びついてきた実態を明らかにした意義は大きい。地域社会における宗教的職能者の特徴、役割と棲み分け、女性患者が多くを占める社会的意味が具体的に描かれている。時代変遷に関しても、文献と聞書を併用して、民国期、1950 年代、文化大革命期、1980～1990 年代、2000 年代、2010 年代にわたる段階的変化を、民衆側の語りに基づく実態から明らかにした。
7. 調査地では、狐仙信仰と女性の民間道士の「胡子爺」が重なり合い、歴史と民俗、狐と人間、狐仙と狐精の複雑な相互作用の実態の記述も大きな成果といえる。調査地が武当山の山麓で歴史的関係が深いことで、民衆間に道教思想が取り込まれ狐仙信仰が独自の展開を遂げた実態が明らかにされた。最終的には、狐仙信仰の眷属の属性や、境界性の特徴を示し、個別の事例を越えた普遍性への道筋がつけられた。

本論文には望蜀ともいえるが、今後、内容的にさらに補い、深化させるべき点、また言及の欲しい点もある。狐が動物信仰に昇化する生態とその契機、中国憑霊信仰における北方・薩満文化、南方・儺文化、巫覡、女巫と男巫における系譜・機能における狐仙信仰の位置づけ、民衆道教的農民反乱に結び付く指向性の有無などである。迷信的に捉えられる民俗信仰、宗教的職能者の調査の難しさは理解できるが、それを越えての今後の成果に期待するところが大である。

いずれにせよ、本論文は先行研究の学説整理と検討を綿密にした上で研究課題を設定し、関係する地方志、民俗方面の文字記録を博捜、精読し、また幾多の制約がある中、現地調査による聞き書きなどの諸資料との総合化を試み、その分析と考察が的確になされている。

以上、漢民族民俗信仰体系における狐仙信仰の歴史的展開を概括し、その上でこの信仰の地域的展開の異同の意味を分析し、狐仙信仰に通底する性格を具体的に提示したことはまさに歴史民俗資料学の論文として高く評価できる。

また、口頭試問において著者に更なる質問も試みたがいずれも相応しい応答であった。その結果も合わせ、程亮氏に博士（歴史民俗資料学）の学位を授与することがふさわしいものと審査員一同これを認めるものである。